

科目名	履修学年	単位数	教科書	副教材等
数学 I	1	3	数研出版 新編数学 I	数研出版 3 TRIAL 数学 I + A

評価の観点	到達目標および評価の内容
a 知識・技能	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基礎的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
b 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
c 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法	
単元テスト、課題等の提出状況、学習活動への取組などの総合評価となります。	

年間指導計画																							
前期					後期																		
月	予定 時数	学習内容	評価の観点			月	予定 時数	学習内容	評価の観点														
			a	b	c				a	b	c												
4	3	第1章 数と式 1 多項式の加法と減法	○			10	4	5 2次方程式	○														
												3	2 多項式の乗法	○			3	6 2次関数のグラフと x軸の位置関係	○				
																						4	3 因数分解
	5	4	4 実数		○																		
												4	5	5 根号を含む式の計算		○							
	6	2	6 不等式の性質	○																			
												6	4	7 1次不等式	○			11	4	第4章 図形と計量 1 三角比	○		
	2	8	8 絶対値を含む方程式・不等式		○				4	2 三角比の相互関係	○												
7						3						第2章 集合と命題 1 集合	○			12	4	3 三角比の拡張	○	○			
	3	2	2 命題と条件		○				4	4 正弦定理	○												○
2						3						3 命題とその逆・対偶・裏	○				2	5 余弦定理	○	○	○		
	2	4	4 命題と証明		○				3	6 正弦定理と余弦定理の応用	○											○	○
8						4						第3章 2次関数 1 関数とグラフ	○		○	1	2	第5章 データの分析 1 データの整理	○				
	6	2	2 2次関数のグラフ	○				2	2	2 データの代表値	○												
	3	4	4 2次関数の決定		○		○	3	3	4 分散と標準偏差	○											○	○
						2											2	5 2つの変量の間の関係	○	○	○		
									2	6 仮説検定の考え方	○											○	○
計 105																							

※原則として一つの単元ですべての観点について評価するが、特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

#### 履修上および学習上の留意事項

数学Aと同様に習熟度別クラス展開を行う。数学IIなどに継続していく大切な科目であるため、しっかり学ぶこと。